

# 領域「表現」におけるピアノ実技指導のシラバス分析 —計量的テキスト分析を用いて—

小林 梨紗

## Syllabus Analysis of Practical Instruction for Piano in the Field of "Art Expression" in the Early Childhood.

— By text mining —

KOBAYASHI, Risa

### 要旨

本研究の目的は、保育者養成課程でのピアノ実技指導科目が、どのような内容や到達目標で構成されているかを明らかにすることである。そのため、保育者養成課程のある関東圏の4年制大学69校を対象とし、ピアノ実技指導科目のシラバスのテキストデータを収集し、計量的テキスト分析（テキストマイニング）を行った。さらに授業で使用される「教科書（使用テキスト）」を集計した。テキストマイニングにより抽出された「頻出語」と語句間の関係や結びの強さを示す「共起ネットワーク」をもとに考察した結果、「授業の概要」および「授業の到達目標」からは、保育者としての具体的な指導場面を想定し、子どもの歌や表現を支えるために必要な、基本的な音楽理論の理解とピアノ演奏技術の習得を目的とし構成されていることが示された。また、指定された教科書においては、多様化が示された。

### キーワード

保育、ピアノ、シラバス分析、テキストマイニング、KH Corder

### Abstract

The purpose of this study is to clarify what kind of content and goals the practical subject for piano in the nursery school training course is composed of. In order to do this, we collected text data of the syllabus of the practical training course for piano from 69 universities in the Kanto area, which have a childcare worker training course, and performed quantitative text analysis (text mining). Besides, the textbooks used in the lessons were compiled. There is the result of consideration based on the "co-occurrence network" that shows the relationship and the strength of the connection between the "frequent words" extracted by text mining. From the "outline of the lesson" and the "achievement goal of the lesson", it was shown that they were structured for the purpose of understanding the basic music theory and learning the playing technique for piano, which are necessary to support children to sing and express their feeling, assuming a specific teaching scene as a nursery teacher. In addition, diversification was shown in the designated textbooks.

### Key words

Childcare, piano, syllabus analysis, text mining, KH Corder

### 問題と目的

平成29年に改訂された幼稚園教育要領（文部科学省，2017）において、領域「表現」のねらいには、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い創造性を豊かにする」と、表現や感性に関することが明記されている。音楽表現は、身体表現、造形表現とともに領域「表現」の範疇として扱われる科目である。音楽表現を支えるピアノ実技指導に関する研究は、指導内容、指導効果など、科目の具体的な内容を中心に論じられてきた。辻・伊東・安久津（2019）は、2009年から2019年までに発表されたピアノ実技指

導についての約110論文を分類した結果、「実践報告」や「教材の分析」、「授業の編成」などの内容が多くを占め、科目の内容に焦点が当たる傾向があることを示した。ピアノ実技指導の使用教材について、シラバスをもとに分析・検討した研究には、辻・鹿戸・田中（2017）があるが、横断的にピアノ実技科目の内容を比較・検討を行った研究は希少である。一方で、授業を構成する上での指針ともなる領域「表現」に示されたねらいや内容から、音楽表現やピアノ実技の指導の在り方を検討した研究も確認できる。例えば、5領域すべてのねらいや内容に対して考えられる音楽活用場面とピアノ伴奏の役割を示した田原

(2015) や、劇音楽を通じてピアノ演奏技法を含めた音楽的表現力を総合的に育んだ報告(中島, 2018)などがある。しかし、平野(2021)は、三法令(幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定子ども園教育・保育要領)にピアノ指導についての記載がないことに触れ、「保育者養成課程におけるピアノ実技の考え方、方向性、科目としての位置付け等も養成機関によって違いがあり、カリキュラム内容の絶対量や扱う曲の難易度の振り幅も大きく、多様である」と指摘する。

では、平成29年に作成されたモデルカリキュラムには、領域「表現」の専門事項はどのように示されているのであろうか。幼稚園教育要領の改訂に先立ち出された中央教育審議会答申(平成27年)を受け平成29年に作成された「領域および保育内容の指導法に関する科目」には、「領域に関する専門事項」と「保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)」のモデルカリキュラムが示されている。「領域に関する専門事項」は、幼稚園教育において、「何をどのように指導するのか」という視点で見たときの「何を」にあたる部分(文部科学省, 2017)であり、領域の学問的な背景や基盤となる考え方でもある。

「領域に関する専門事項」の「幼児と表現」の全体目標は、「領域『表現』の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項について知識・技能、表現力を身につける」と定められている。そして、(1) 幼児と感性と表現の一般目標は「幼児の表現の姿や、その発達を理解する」であり、到達目標として以下の三つが定められている。

- 1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。
- 2) 表現を生成する過程について理解している。
- 3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。

また、(2) 様々な表現における基礎的な内容の一般目標は「身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。」と示されている。到達目標には、

- 1) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
- 2) 身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。
- 3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
- 4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
- 5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。

と示されている。上記の内容を踏まえると、保育におけるピアノ

実技指導の科目は、「様々な表現の基礎的な知識技能」の一つとしてピアノ演奏の技術を学び、実技を行うことで幼児の表現を支えるための学生自身の感性を豊かにすることが求められていると考えられる。しかし、前述のように、養成校により科目としての位置づけや方向性に統一性がないことが推察され、横断的な視点から検討することが必要であると考えられる。

そこで本研究では、保育者養成課程におけるピアノ実技指導の現状を、シラバスをもとに探索的に検討する。授業目標・内容を具体的に表現したシラバスを手掛かりに探っていくことは、科目の質保証の観点からも重要な課題であると考えられる。分析には、計量的テキスト分析であるテキストマイニングの手法を用いる。テキストマイニングとは、膨大なテキスト(文書)情報の中から有用な情報を掘り出す(マイニング)のことで、定型化されていないテキストデータを、一定のルールに従って定型化して整理し、データマイニングの手法を用いながら、相関関係などの定量分析を行う手法(齋藤, 2011)である。

これまでにテキストマイニングにより保育者養成領域のシラバスを分析した先行研究には次のようなものがある。金城(2017, 2018)は東京都に位置する保育者養成校の「保育内容(人間関係)」「幼児と人間関係」のシラバスを分析し、授業内容の語句の特徴や語句間の関係性、領域内の特徴語の構造を明らかにした。深尾(2020)は、同一大学の領域「表現」における造形表現の講義要項とシラバスを縦断的に分析し、専門的事項の変遷についてまとめ、養成校の責務について論じている。以上のような研究成果が得られていることから、本研究でもテキストマイニングを用い、保育者養成課程でのピアノ実技指導のシラバスを分析し、どのような内容や到達目標で構成されているかについて明らかにする。

## 方法

### 1) 分析の対象

関東圏に位置する保育者養成課程を有する四年制大学のうち、web上にシラバスが公開されている大学69校を対象とした。授業科目名は、「音楽」、「音楽実技」、「音楽演習」、「ピアノ実技」等を選択対象とした。シラバスのうち、「授業概要」、「到達目標」、「教科書(使用テキスト)」を本研究の分析対象とした。なお、カリキュラムが「音楽Ⅰ」、「音楽Ⅱ」のように基礎・応用に分かれており、シラバスの授業概要および到達目標が同一内容である場合は除外した。

### 2) 手続き

Web上に掲載されているピアノ実技指導のシラバスから「科目名」、「授業の概要」、「授業の到達目標」、「教科書(使用テキスト)」を抜き出しExcelファイルに入力した。続いて、分析ソフトKH Corder(樋口, 2020)を用いて、テキストマイニン

Table 1 「授業の概要」頻出上位150語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
音楽	204	実技	31	方法	17	コードネーム	10	自分	8
授業	116	力	29	音楽表現	16	リズム	10	手遊び	8
ピアノ	113	教育	28	小学校	16	レパートリー	10	場面	8
基礎	96	高める	27	奏法	16	レベル	10	全体	8
保育	96	幼稚園	27	保育現場	16	簡単	10	同時に	8
子ども	88	能力	25	様々	16	教育現場	10	発展	8
行う	80	理解	25	用いる	15	教員	10	並行	8
技術	76	演習	24	クラス	14	形式	10	幼稚園教諭	8
弾き歌い	74	中心	24	ピアノ演奏	14	行事	10	Music	7
表現	72	豊か	24	ピアノ伴奏	14	講義	10	テキスト	7
指導	69	歌う	23	曲	14	時間	10	学修	7
伴奏	68	基本	22	向上	14	深める	10	教諭	7
歌	67	内容	22	受講	14	生活	10	鍵盤	7
レッスン	66	経験	21	修得	14	体験	10	個々	7
必要	63	目的	21	進度	14	保育園	10	広げる	7
学ぶ	61	演奏技術	20	発表	14	ピアノ実技	9	合わせる	7
習得	61	楽器	20	それぞれ	13	援助	9	合奏	7
歌唱	59	現場	20	具体	13	獲得	9	試験	7
知識	57	理論	20	実施	13	器楽	9	児童	7
演奏	56	応じる	18	童謡	13	形態	9	実際	7
身	54	楽典	18	目標	13	使う	9	実習	7
活動	52	教材	18	コード	12	弾く	9	少人数	7
技能	44	使用	18	扱う	12	発声	9	状況	7
個人	42	幼児	18	科目	12	遊び	9	説明	7
グループ	38	養う	18	感性	12	音	8	創造	7
課題	35	練習	18	個別	12	各自	8	対応	7
実践	33	楽譜	17	アンサンブル	11	活用	8	長調	7
学習	32	展開	17	楽曲	11	求める	8	踏まえる	7
目指す	32	読譜	17	季節	11	形	8	読み方	7
学生	31	付ける	17	ML	10	仕方	8	入門	7

グによる分析を行った。「教科書（使用テキスト）」については、採用数の単純集計を行った。

## 結果と考察

### (1) 「授業の概要」について

K H Corderの前処理を実施した結果、総抽出語数12,256、異なり語数1,196が抽出された。分析対象となったデータは文492、段落数273であった。出現数による単語の取舍選択では最小出現数を15に設定し、描画する共起関係の絞り込みでは描画数を60に設定した。「弾き歌い」「演奏技術」「ピアノ伴奏」などの複合語については2回以上出現した語を強制抽出した。以下に図表を用いて結果と考察を述べていく。

Table 1は「授業の概要」の頻出語上位150語である。抽出回数が70回以上の語句をみると、「音楽」が最も多く出現しており、続いて「授業」「ピアノ」「基礎」「保育」「子ども」「行う」「技術」「弾き歌い」「表現」の順に多く出現している。

次に、「授業の概要」について記述されたテキストをもとに、共起ネットワークを作成した（Figure 1）。共起ネットワークは集計単位を段落、語句の最小出現数を15、描画する共起関係は上位60と設定し、最小スパンニング・ツリーだけを描画と設定し、作成した。その結果、「幼稚園での活動に必要な知識・技能」「保育における表現」「子どもの歌の伴奏、弾き歌い」「ピアノの基礎」「授業の形態（個人あるいはグループによるレッ

スン）」の5つのテーマが示された。

以上の結果から、シラバスの授業の概要は、「保育者として必要な知識・技能」として「弾き歌い、歌唱伴奏のためのピアノの基礎を学ぶ授業」となっていることが窺える。幼児の表現活動に展開させるために、保育の具体的な指導場面を想定した楽曲等の内容で構成していることが考えられる。

### (2) 「授業の到達目標」について

K H Corderの前処理を実施した結果、総抽出語数9,100、異なり語数823が抽出された。分析対象となったデータは文470、段落数368であった。出現数による単語の取舍選択では最小出現数を17に設定し、描画する共起関係の絞り込みでは描画数を60に設定した。複合語については、2回以上出現した語を強制抽出した。以下に図表を用いて結果と考察を述べていく。

Table 2に示した「到達目標」の頻出語上位150語のうち、抽出回数が70回以上の語句をみると、シラバスの「授業の概要」と同様に「音楽」が最も多く出現しており、続いて「子ども」「演奏」「弾き歌い」「表現」「身」「習得」の順に多く出現していた。このうち「表現」は、原文のテキストデータを確認したところ、「子どもの表現を支える」や「子どもの歌唱表現を支える」といった、子どもを主体とした表現に関する記述と、「音楽的な表現力を身に付ける」や「ピアノ演奏の表現技術」といった学生を主体とした表現に関する記述の両方がみられた。

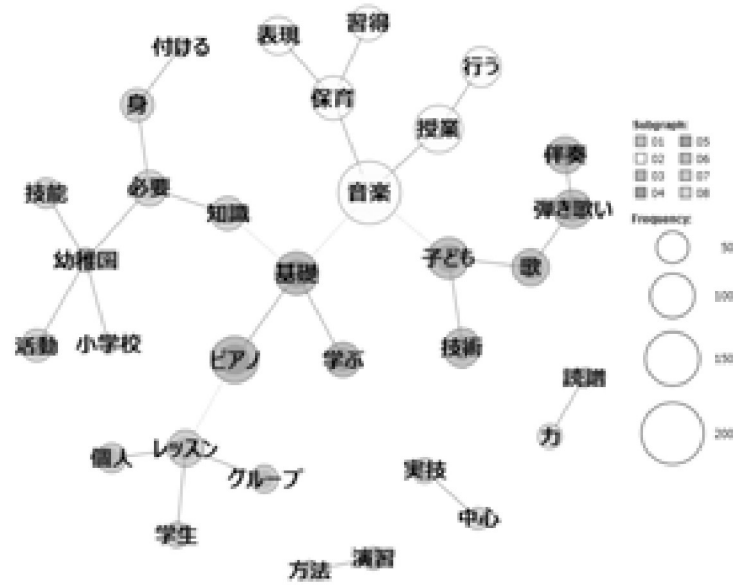


Figure 1 「授業の概要」共起ネットワーク図

Table 2 「到達目標」頻出上位150語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
音楽	137	楽曲	23	コードネーム	11	援助	7	幼児教育	6
子ども	94	基本	20	音	11	教育現場	7	和声	6
演奏	77	目指す	20	求める	11	教材	7	音階	5
弾き歌い	76	力	20	行う	11	三和音	7	歌詞	5
表現	76	ピアノ演奏	19	弾く	11	思考	7	拡充	5
身	73	幼稚園	19	発達	11	修得	7	学び	5
習得	71	様々	19	練習	11	生かす	7	学生	5
歌	67	用いる	19	演奏技術	10	即興	7	感性	5
保育	67	指導	18	応用	10	対応	7	簡単	5
伴奏	66	付ける	17	課題	10	童謡	7	関心	5
基礎	64	目標	17	授業	10	読む	7	含む	5
理解	63	現場	16	小学校	10	DP	6	喜び	5
ピアノ	61	豊か	16	体験	10	アンサンブル	6	記号	5
歌唱	48	方法	15	養う	10	グループ	6	見る	5
必要	48	ピアノ伴奏	14	科目	9	応じる	6	効果	5
活動	41	高める	14	観点	9	音楽技能	6	合奏	5
技術	41	出来る	14	合わせる	9	簡易	6	作成	5
技能	39	奏法	14	長調	9	鍵盤	6	使う	5
知識	36	発表	14	展開	9	向上	6	手遊び	5
学ぶ	29	楽典	13	保育園	9	自ら	6	創造	5
実践	29	活用	13	保育現場	9	実技	6	奏	5
歌う	27	考える	13	和音	9	実際	6	総合	5
楽器	27	知る	13	学習	8	主要	6	多く	5
レパートリー	25	読譜	13	活かす	8	場面	6	幅広い	5
音楽表現	25	リズム	12	工夫	8	深める	6	(DP3)	4
楽譜	24	楽しい	12	使用	8	正確	6	(K)	4
教育	24	曲	12	支える	8	生活	6	ソルフェージュ	4
能力	24	増やす	12	自分	8	捉える	6	ト長調	4
幼児	24	内容	12	実習	8	伝える	6	ハ長調	4
理論	24	コード	11	遊び	8	発声	6	バイエル	4



Table 3 教科書・使用テキストの集計結果

テキスト名	編・著・監修者	出版社	採用校
「バイエル」※出版社別含む	—	—	15
改訂ポケットいっぱいのおうた 実践 こどものうた簡単に弾ける144選	鈴木恵津子他著	教育芸術社	12
こどものうた200	小林美実編	チャイルド本社	9
教職課程のための大学ピアノ教本	大学音楽教育研究グループ編	教育芸術社	6
こどものうた100	小林美実編	チャイルド本社	5
続・こどものうた200	小林美実編	チャイルド本社	5
「ブルグミュラー25の練習曲」※出版社別含む	—	—	5
うたってひいて童謡びっこりの	島田和昭・高倉秋子 編	共同音楽出版社	3
改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育	神原雅之・鈴木恵津子編著	教育芸術社	3
最新・幼児の音楽教育	井口太他	朝日出版社	3
保育のために こどものうた140選	和田葉子・日比吉子 他編	ドレミ楽譜出版社	3
「ソナチネアルバム」※出版社別含む	—	—	3
未来の保育者・教師のためのピアノ・テキスト 「シング・ウォーク・ダンス」	坪能由紀子他	音楽之友社	2
歌はともだち	—	教育芸術社	2
心を育む子どもの歌	南曜子・今村方子・今川恭子編	教育芸術社	2
幼児のための音楽教育	石井恵子著	教育芸術社	2
みんなピアノだい好き!	坪能由紀子ほか著	全音楽譜出版	2
新版 和音伴奏による 幼児のうた100曲 (第2版)	在原章子・菊本哲也・八木宏子 ほか	全音楽譜出版社	2
かんたんメソッド コードで弾きたい	細田淳子ほか著	カワイ出版	2
「ソナタアルバム」※出版社別含む	—	—	2
これだけは歌って弾こう子どもの歌 厳選50曲	岡村弘・二宮紀子・杉原由利子	共同音楽出版社	1
ピアノレッスン初級 読みながら弾ける独習のための教本	秋山 治子 著監修	共同音楽出版社	1
いっしょにうたおう子どもの歌	中島龍一	共同音楽出版社	1
たのしく弾こうピアノ小品・名曲集	中島龍一	共同音楽出版社	1
ひとりで学べる『ピアノワークブック』	秋山 治子 著監修	共同音楽出版社	1
やさしい伴奏によるこどものうた (1)	束 保	全音楽譜出版社	1
ピアノ教本MUSICA	在原章子・菊本哲也・八木宏子 ほか	全音楽譜出版社	1
保育者のためのピアノの基礎	井口太・笠井かほる	朝日出版社	1
子どもと楽しむ童謡カレンダー Vol.1,2	吉田梓監修	東亜音楽社	1
こどものうた<簡易伴奏曲つき>	平島美保、木村鈴代、小杉裕子編	圭文社	1
こどものうた弾き語り曲集	荒井弘高 (監修), 他	圭文社	1
やさしい伴奏譜付きこどものうた楽譜集	秋山 治子	小学館	1
やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月	新星出版社編集部	新星出版社	1
めざせ! 保育士・幼稚園教諭 音楽力向上でキャリアアップ	久保田慶一他	スタイルノート	1
弾き歌いベスト曲集「こどもの歌93」	東ゆかり他	カワイ出版	1
誰でもすぐ弾けるピアノ伴奏	梅沢一彦	ケイ・エム・ビー	1
先生になろう! 音楽編	杉本明他	スタイルノート	1
おとなのためのピアノ教本 I~V巻	橋本晃一	ドレミ楽譜出版社	1
うたえる! ひける! ピアノ曲集 (1) (2)	橋本晃一	ドレミ楽譜出版社	1
こどもの歌名曲アルバム~簡易ピアノ伴奏による~	松山祐士	ドレミ楽譜出版社	1
やさしく弾ける保育名歌ピアノ曲集	松山祐士	ドレミ楽譜出版社	1
新 やさしいピアノ伴奏法1	佐土原知子	ドレミ楽譜出版社	1
保育のための歌と遊び こどもの世界	尾林裕美子他	ドレミ楽譜出版社	1
保育の先生・学生さんへ 3つのコードで楽しく弾ける♪ピアノ伴奏曲集	伊藤伸明 編著	ドレミ楽譜出版社	1
簡易ピアノ伴奏による こどもの歌名曲アルバム	松山祐士 編著	ドレミ楽譜出版社	1
これなら弾ける! 保育のうたピアノ伴奏160	本間玖美子 三森桂子 前田葉月	ナツメ社	1
保育のうた155	寺田真由美	ひかりのくに株式会社	1
実践 保育内容シリーズ5 音楽表現	三森桂子 小島エマ	一藝社	1
あそびうた大全集200	細田 淳子	永岡書店	1
子どもと遊ぶピアノ曲	高橋 好子, 鳥居 美智子他	音楽之友社	1
子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ	二宮紀子	音楽之友社	1
教員・保育士養成のための ベアで楽しむピアノ教本	藤澤 淳	音楽之友社	1
保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 I・II	大海由佳・古谷和子・肝付文子	学研	1
新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門 音による表現の指導	石橋裕子他 熊本真見子	北大路書房 不明	1 1
「ブルグミュラー18の練習曲」	—	—	1
「バスティンピアノベーシックス ピアノレベル2」	James Bastien	株式会社東音企画	1
「メソッドローズ・ピアノ教則本」	—	—	1
「バーナム ピアノ テクニック1」	エドナ・メイ・バーナム	全音楽譜出版社	1

## 【授業担当教員によるテキスト】

テキスト名	編・著・監修者	出版社	採用校
聖徳バイエル	音楽I研究室	聖徳大学出版会	1
子どもと遊ぶうた! ピアノ・レパートリー	音楽I研究室	聖徳大学出版会	1
子どもと歌おう! 《新版》幼児とともに	音楽I研究室	聖徳大学出版会	1
バイエル併用曲集	音楽I研究室	聖徳大学出版会	1
伴奏付けワークブック	音楽I研究室	聖徳大学出版会	1
グループ曲集1	音楽I研究室	聖徳大学出版会	1
ピアノ曲集I、II~保育者・教諭になるために	國學院大學幼児教育専門学校 ピアノ担当編	共同音楽出版社	1
愛吟集	小原芳明	玉川学園	1

にしたものが多く使われているという共通項はありつつも、その内容については多様化が示された。

到達目標や使用テキストの分析から、技術的にどの程度まで習得すれば基礎的技能を習得したといえるのかについては、各養成校に委ねられている現状が推察され、この点が科目の位置づけや方向性に統一性がないことにつながっていることが考えられた。問題と目的で述べたように、ピアノ実技指導に関する研究が、指導内容や指導効果などの具体的内容を中心に論じられてきたことは、このことによるものであるとも考えられる。

個々の子どもの表現を受け止め感性の発育を援助するためには、子どもに寄り添う心と、保育者自身の感性の豊かさが必要である。ピアノ実技に取り組むことは、多様な音楽表現の基礎的な技能としての演奏技術の習得となるとともに、学生自身の感性を育成することにもつながる。指導の場面では、取り組む楽曲や使用する教材を使って、何を伝えるのかに焦点を当てることも重要であると考えられる。

本研究では、関東圏の4年制保育者養成校のピアノ実技科目を分析対象とし検討した。領域「表現」における養成校の役割を理解するためには、さらに「保育内容指導」などの音楽表現に関する科目との関連も検討する必要があると考え、今後の課題としたい。

#### 引用文献

深尾修一 (2020). 領域「表現」における造形表現の専門的事項とは何か—滋賀短期大学の講義概要とシラバスの変遷を手掛かりに—, 滋賀短期

大学紀要, 45, 67-79.

- 樋口耕一 (2020). 社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して, ナカニシヤ出版.
- 平野浩由 (2021). 保育者養成課程におけるピアノ実技科目の諸課題, 常葉大学保育学部紀要, 8, 49-60.
- 金城悟 (2017). 保育者養成課程における「保育内容 (人間関係)」「幼児と人間関係」のシラバス構成に向けた基礎的研究 (1) 授業計画の分析, 東京家政大学教員養成教育推進室年報, 4, 65-71.
- 金城悟 (2018). 「保育内容 (人間関係)」「幼児と人間関係」のシラバス構成に向けた基礎的研究 (2) テキストマイニングによるシラバス分析, 東京家政大学教員養成教育推進室年報, 5 (1), 65-74. 文部科学省 (2017). 幼稚園教育要領.
- 文部科学省 (2017). 幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究—幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える—, [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/1385790.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1385790.htm) (2021年8月12日確認)
- 中島龍一 (2018). 五領域「表現」における感性豊かな音楽的表現力のある学生を育成するための一考察: ピアノによる劇音楽の作曲書法あるいは演奏技法からのアプローチ, 日本体育大学紀要, 47 (2), 161-179.
- 尾崎公彦・青井則子・入江慶太・伊藤智里・伊達希久子・小合幾子 (2018). 幼稚園教育要領改訂に伴う保育内容領域「表現」に求められる授業内容に関する考察—新しい教職課程のモデルカリキュラムとの比較を通して—, 川崎医療短期大学紀要, 38, 55-61.
- 斎藤郎宏 (2011). 「日本におけるテキストマイニングの応用」The Society for Economic Studies, The University of Kita-kyusyu, Working Paper Series No.2011-1田原昌子 (2015). 子どもの表現のためのピアノ伴奏法Ⅱ—子どもの感性を育むピアノ伴奏力養成について—, プール学院大学研究紀要, 56, 153-168.
- 辻浩・鹿戸一範・田中麻衣 (2017). ピアノ初学者のための使用テキストの実態と傾向—全国の幼稚園教諭・保育士養成校のシラバスに基づいて—, 小池学園研究紀要, 15, 29-30.
- 辻陽子・伊東陽・安久津太一 (2019). 保育者養成課程におけるピアノ指導の意義—最近10年間の研究動向を通して—, 岡山県立大学教育研究紀要, 4-11, 1-10.